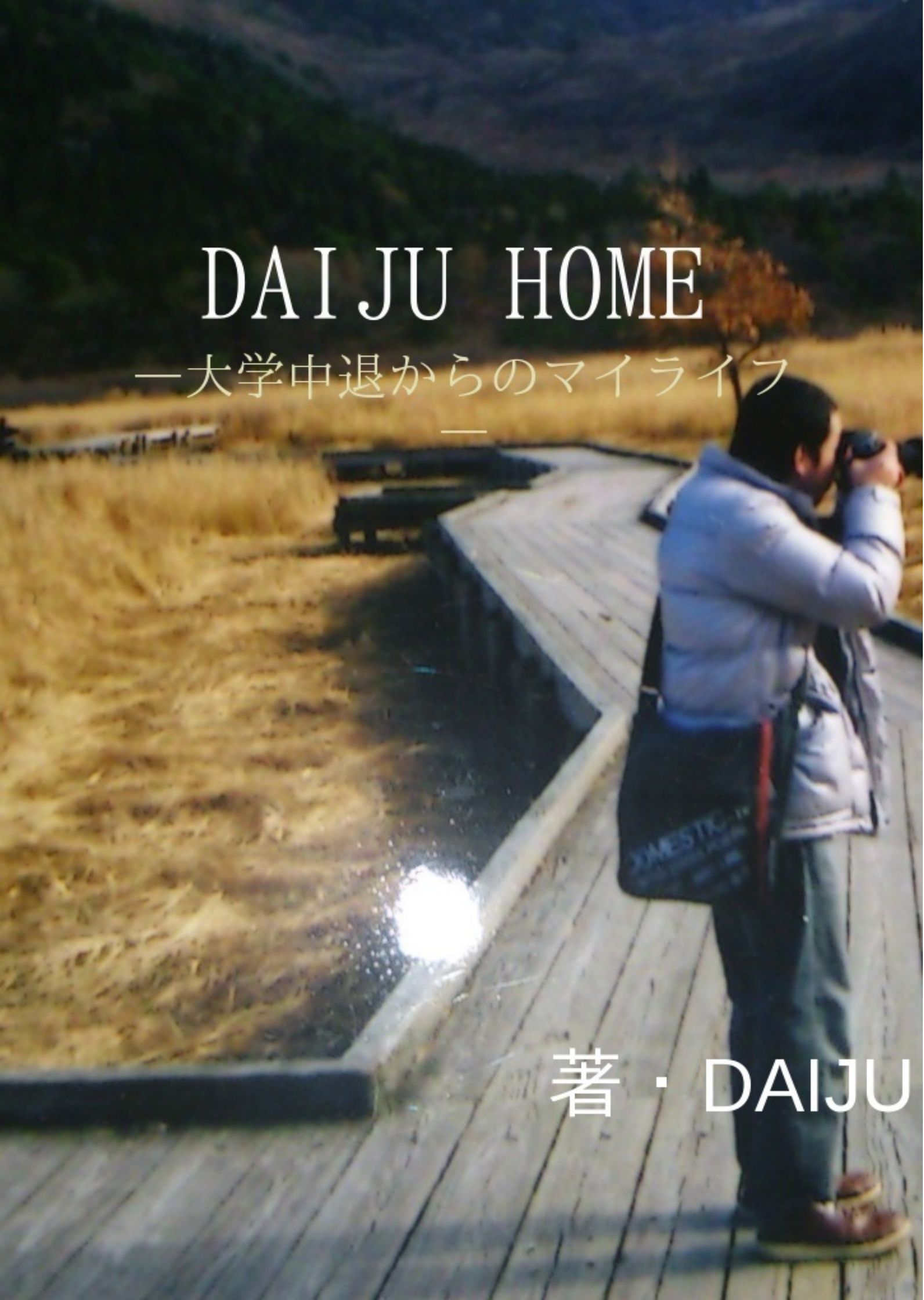

DAIJU HOME

―大学中退からのマイライフ―

著・DAIJU

波乱な人生の幕開け

１９９２年。
桜も散り、暦の文字が「五月」に変わってしばらくの頃、２６００ｇの小さな命がそこに誕生した。

しかし、帝王切開での出産で、へその緒が首に巻きついたその赤ちゃんは、
「おぎゃーおぎゃー」と泣くことはなく、ただ体中紫色の状態でこの世に出てきた。

真っ青な顔になる母親を残し、ただちに集中治療室へ運ばれた。
その子の母親は　（もうダメかもしれない）　と思っていたようだが、
お医者さんの懸命の治療によって、人生を歩んでいく道が切り開かれた。

そんな波乱な人生の幕開けを迎えた小さな男の子には、
「大きな樹のような男の子になってほしい」
との思いから、「大樹」と名付けられた。

僕の人生はこうして始まりを告げたのだ。